

アスベストによる労災請求件数前年比 8.5 倍に



仕事を通じアスベスト(石綿)にさらされたことが原因で肺がん、中皮腫にかかったとして、2005 年度に労災が請求された件数が 1,796 件と、2004 年度の請求件数である 210 件を大幅に上回り約 8.5 倍に急増していたことが、厚生労働省の 5 月 30 日付けの報告で明らかとなりました。

1,796 件のうち、肺がんでの請求件数は 712 件で 2004 年度比の約 11.7 倍、中皮腫での請求件数は 1,084 件で 2004 年度比の約 7.3 倍となっています。

この請求件数の中で認定されたのは、肺がんは 219 件(約 3.8 倍)、中皮腫は 503 件(約 3.9 倍)、合計で計 722 件と 2004 年度の約 3.9 倍になっています。

認定者の業種では、製造業の 361 件(肺がん 115 件、中皮腫 246 件)と建設業の 301 件(肺がん 88 件、中皮腫 213 件)で大部分を占めていますが、卸売業、小売業、交通運輸業、貨物取扱業などアスベストを直接扱うわけではない業種も認定されているケースもありました。

都道府県別では、周辺住民などへのアスベストによる健康被害が 2005 年に最初に指摘された、クボタ旧神崎工場のある兵庫県の 105 件(肺がん 24 件、中皮腫 81 件)、大阪府が 129 件(肺がん 39 件、中皮腫 90 件)と突出して多く、次いで東京都の 64 件(肺がん 29 件、中皮腫 35 件)、神奈川県が 64 件(肺がん 23 件、中皮腫 41 件)となっていました。

アスベストは目には見えませんが身近にある発がん性を帯びた危険な物質です。

当社では、大気・建材等のアスベスト分析を行っております。お気軽にお問い合わせください。

資料 2006 年 5 月 30 日付 EIC ネット

環境分析箇所 森下英行